



## 健全育成シリーズ (124) 「スポーツを楽しむ」



各地で運動会が行われ、まさにスポーツの秋本番を迎えました。

### 熱かった世界選手権

振り返ると、今年の夏は世界選手権が目白押し。世界水泳、世界柔道、世界陸上と猛暑の夏、見る者をさらに熱くしてくれました。

優勝候補が前評判通りメダルを獲得したかと思えば、番狂わせで新しいチャンピオンが生まれる。そんなドラマの連続がスポーツです。

メダル獲得に話題が集中する中、実にほほえましい話がありました。シドニーオリンピック競泳男子100mに出た赤道ギニアのムサンバニ選手は「おばれそうなの」フォームで泳ぎ、大喝采を浴びました。

彼が世界水泳に戻ってきて、一年間の特訓の成果を披露し、再び話題の人となりました。

また世界陸上では、米領サモアのミサベカ選手は百三十キロの巨体で男子100mを走り、(本来は砲丸投げの選手でした。)満場の拍手を受けながらゴールしました。

世界大会ともなると、記録に挑む超人たちの震えるような緊張感溢れる争いが繰り広げられるのですが、そんな中で、彼らのようにひたすら頑張る姿に拍手が送られ

る光景に、スポーツの楽しさ、地球の広さを感じる場面でした。

### マンガに見る子どもの変化

子どもたちの生活に大きな影響を与えるマンガ。その内容の変化は、子どもたちの心の変化を如実に反映していると言えます。

昭和四十年代の高度経済成長時代は、不撓不屈の精神をうたったスポーツ根性ものや忍耐もののマンガが主流でした。時代的に貧しく、少しは豊かになりたいと願う気持ちでマンガに反映していたのです。それが国全体が豊かになり、

ものが溢れる時代へと変化したことにより、「まじめにがんばってもがんばらなくても人生そんなに変わらぬ」と言う考えが広まり、時代は「脱力主義の時代」へと変化してきました。そこでマンガも無意味なストーリー、ギャグマンガが主流となってきたのです。

これが子どもたちのスポーツや運動、遊びの面にも大きな影響を与えています。厳しい練習、忍耐強さが必要なスポーツは敬遠され、運動でも苦手な競技は避けられる傾向にあります。遊びといえ

ばテレビゲーム、カードゲーム、最近ではパソコン、携帯電話でのメールやインターネットなど、体を動かささないものへと変化してきています。

しかし反面、アマチュアスポーツで根強い人気を保っているのが高校野球です。

坊主頭で全力疾走、そのきびき

びた姿が見るものの感動を呼んでいるのでしょうか。

### またプロの世界でも、野球やサッカーの人気は高く、最近では世界へ進出している日本人選手の活躍が連日のように報道されています。

この影響か、世界を夢見る子どもたちが増えているのも事実です。スポーツ少年団などが盛んになってきていることからそのことが分かります。まさに子どもたちの「スポーツの二極化」が進んでいるといえます。

試合を楽しむ

ところで、最近のスポーツでよく聞く言葉が、「試合を楽しむ」とができた」と言うコメントです。世界選手権でも高校野球でも、インタビュに答える選手の口から再三聞かれました。これはとても興味ある言葉です。

厳しい練習を重ねてきた選手たちがその本番を楽しんでいるというのです。スポーツは本来苦しいだけのものではなく、その経過においても、結果においても楽しさがあり、言い換えればスポーツそのものが楽しいもののはずです。

「脱力主義の時代」に育つ子どもたちにぜひスポーツの楽しさを知ってもらい、ゲーム中心の遊びから、仲間と共に汗を流すスポーツを通して「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」の言葉の如く、これからの厳しい社会を乗り切るたくましい心身をつくってほしいと願います。

# 伝言板

## 富士北麓・東部地域振興局健康福祉部(大月保健所)

### ご存じですか

### 臓器提供意思表示カード

このカードは死後に臓器を提供するかどうか、ご自身の意思を示すカードです。

意思表示は十五歳以上であればできることになっています。

カードは、あなたご自身の意思が伝わるように家族とよく話しあってから、普段携帯している運転免許証などと一緒所持してください。

臓器移植のことは理解したけれど、提供はしたくないという方の意思表示もこのカードでできますので、より多くの方々に所持していただきたいと思います。カードは、市町村、保健所、その他公共機関などの窓口で設置してあります。

県では、県民の皆さんに臓器移植について普及・啓発活動を行っているだけでなく、「いのちのリレー・ボランティア」を募集しております。

登録は随時保健所で行っていますので関心のある方はぜひ連絡をください。臓器移植に対する理解と協力をお願いします。

### きのご食中毒に

### 注意しましょう

秋は「きのこ」などの多くの自然の恵みを実感できるよい季節です。

しかし、きのこについての正しい知識がなかったり、自分の知識を過信してしまい、きのご食中毒という不幸な結果を招く例が後を絶ちません。

今年も、管内では八月末に二件のきのご食中毒が発生し、どちらも、間違えやすい毒きのことして有名な「クサウラベニタケ」と「カキシメジ」のためでした。

毒きのこで中毒にならないために次の点に注意しましょう。

○「なすと煮れば大丈夫」、「色が地味だと食用になる」など昔からの言い伝えは誤り。

○名前だけでなく実物を図鑑などと比べてみる。

○名前がわからないきのこや自信のないきのこは食べない。

○きのこの鑑定を依頼する時は、できるだけ完全な形の新鮮な現物を持参する。

### 問合せ先

大月市大月町花咲1608-3  
☎(22)7824

